

# ふるさと歴史散歩 「遺跡巡りツアー」

【日程】9:30 郷土館集合（日程説明と諸準備）→9:35 ① 富ノ沢遺跡観察 ② 大石平遺跡を散策→10:00 ③ 尾駮遺跡見学→10:45 ④ 石川遺跡で表面採集と観察→11:30 ⑤ 老部川遺跡で土器の表面採集→12:30 現地解散



## 今回の遺跡巡りツアーのねらいは！

六ヶ所村には、約 150 もの遺跡がある。昭和 46 年以降、むつ小川原開発による道路や建屋建設のための発掘が、47 カ所行われ、ここ郷土館にこれらの遺物が収蔵されている。

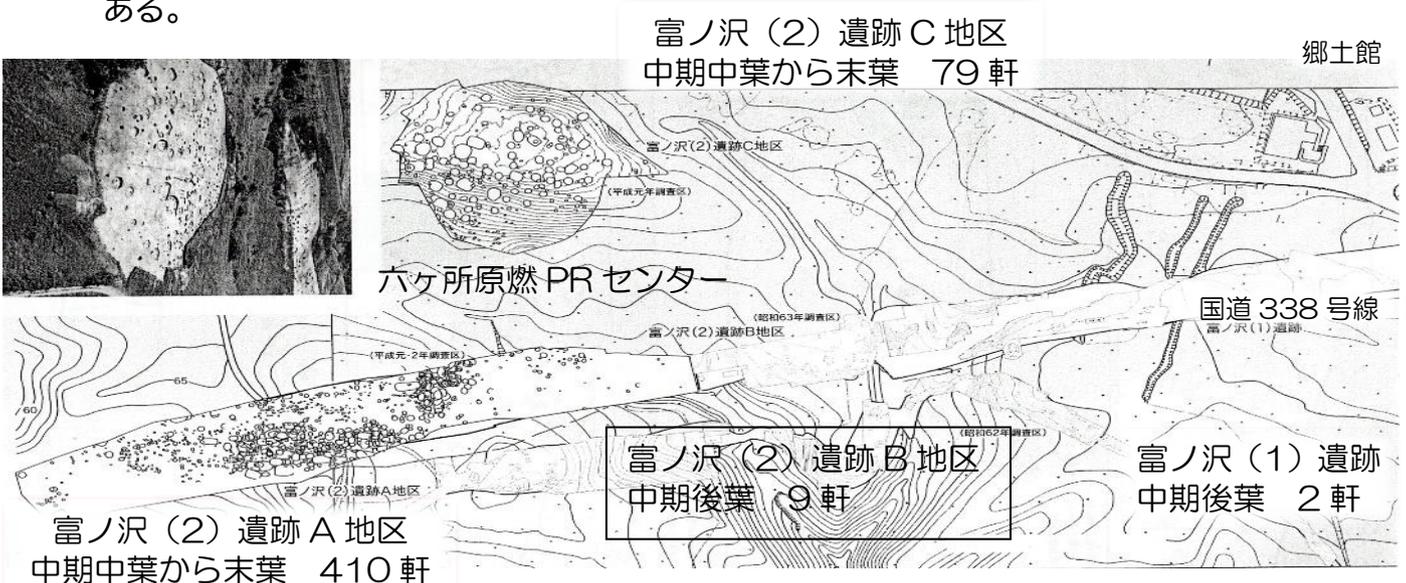
今回は、「縄文や弥生時代の人々は、どのような場所に集落を築いたのか」、「どのような場所から遺物や遺構が検出されているのか」を中心に、代表的な遺跡があった場所を巡る。また、地表をよく観察すると、土器片や石器などが、現在でも確認できる遺跡がある。実際に現場観察してみよう。

### (1) 富ノ沢遺跡(縄文時代中期の集落の盛衰について)

郷土館周辺では、西側に富ノ沢遺跡、南に上尾駮遺跡、東に大石平遺跡が検出され、縄文中期と後期の大集落があった。

なぜ、郷土館周辺の地区に縄文の大集落が集中していたのかを考えてみると、

- ① 郷土館の裏や近くの大石総合運動公園のキャンプ場の沢3カ所から沢水が湧き出ている、老部川に流れている。
- ② 南の沢を降りると尾駮沼、郷土館の裏を降りるとサケマスが遡上し、海につながる老部川がある。



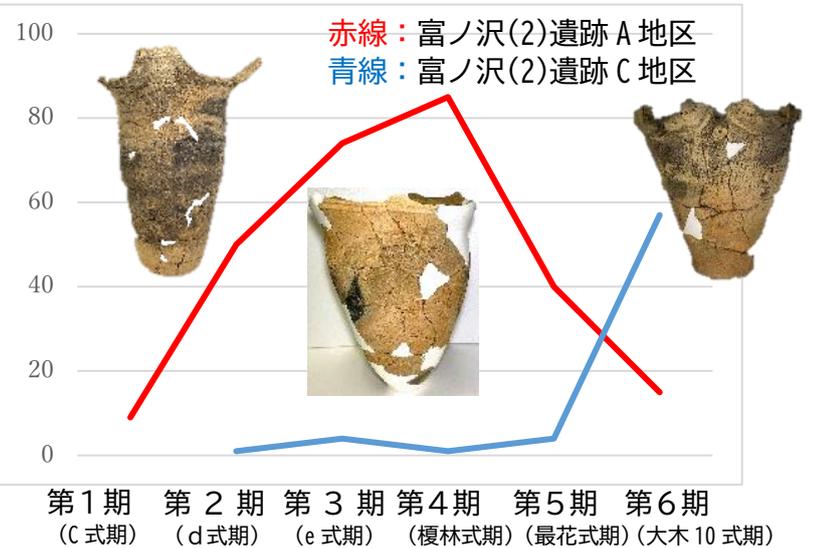
## (2) 縄文の大集落富ノ沢(2)遺跡 A 地区にあった集落の衰退の謎？

縄文中期の大集落富ノ沢(2)遺跡 A 地区にあった円筒土器文化の集落は、突然衰退し、代わって C 地区に大木式土器文化の人々の大集落が突然現れる。その理由は、わかっていない。



富ノ沢のムラの様子

富ノ沢(2)遺跡 A 地区と C 地区における住居址数の変遷



## (3) 大石平遺跡(縄文時代、弥生時代)

郷土館の東側一帯にある大石平遺跡は、縄文時代後期や弥生時代の遺跡が見つまっている。

この遺跡は、祈りの場と考えられる配石遺構を伴った縄文時代中期後葉から後期にかけて約 500 年続いた遺跡で、環状配石の外側には、北陸地方と共通するような円形に並ぶ木柱(直径約 40 cm)の巨大木柱群(モニュメント)と墓壇の可能性が高い約 500 基の土坑群が、幅約 12m で配置されている。

弥生の竪穴住居が 3 期にわたって計 9 軒が建てられている複合遺跡で、すぐそばに、老部川に下りていく小道があったが、残念ながら水田跡は発見されていない。

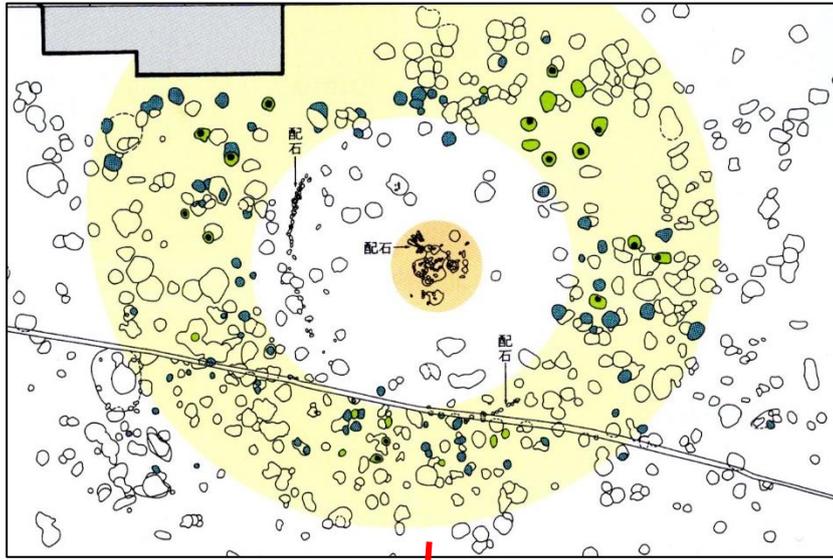
このように長期にわたって、この地に人々が暮らしていたわけを考えてみよう。



大石平遺跡遠景



大石平遺跡出土の弥生時代の土器



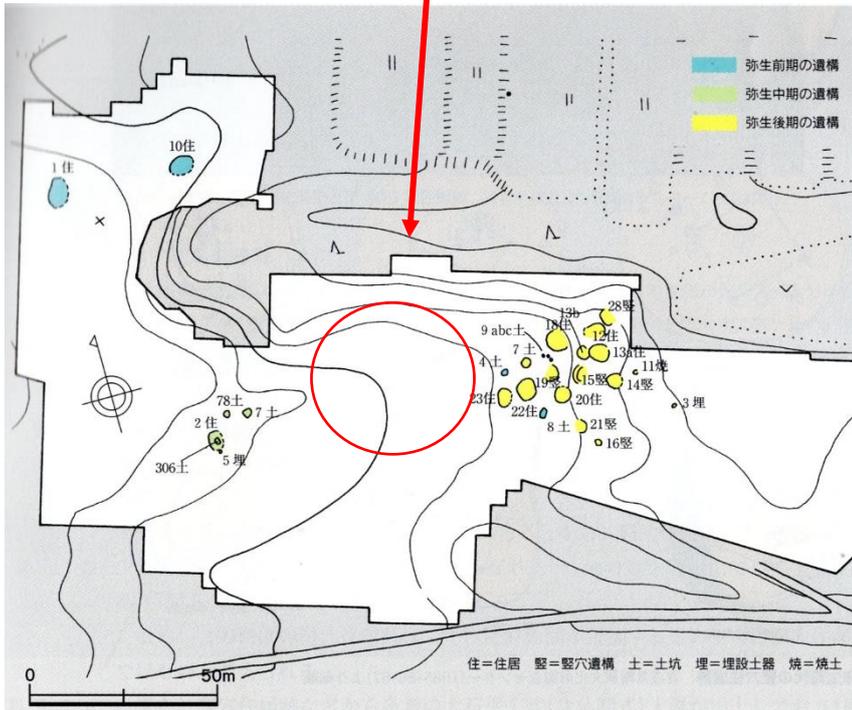
### 縄文時代後期の配石遺構

弓状の配石が確認されていて、中心の配石を囲むように数十か所の柱の穴(緑色)があり、木柱が建っていたと思われる。まんべんなく鐸形土製品も出土していて、祭祀や祈とうの場と考えられる。鉄塔から東に250mの所にあった。

内側にススがついていた鐸形土製品が、配石遺構内から出土している。火を扱った儀式が行われていたかもしれない。



鐸形土製品



### 弥生時代の集落遺跡

竪穴住居跡が合計9軒、竪穴遺構が合計7基発見。前期は竪穴住居跡が2軒と土坑が1基、中期前葉になると竪穴住居跡が1軒と土坑が3基、中期後葉になると集落の拡大が見られ、竪穴住居跡が6軒、竪穴遺構が7基、土坑4基などが1,000㎡の範囲の中に密集してくる。第306号土坑跡から土器23点、石鏃8点出土。意図的に供えられたもの。出土した中期の大石平VI群土器は、この時期の標識的な資料として重要。また、中期末の土器は、大石平I式(念仏間式)土器の内容を研究する上で重要なものである。

## (4) 上尾駱遺跡(縄文時代後期)

郷土館の南側にある遺跡で、このムラは、はじめは6軒、その後9軒、多い時で27軒、最後は4軒の4期が明らかになった。急激に増えた原因は、自然増(分家)なのか、社会増(移住者)なのかわからないが、大石平遺跡でも同じような増加がみられることから、注目すべき社会現象である。墓地の広場には、数十本の木柱(トーテムポール)が立ち、南西側には竪穴住居跡が広がり、集落を形成している。現在でも6つの泉がある。



墓域を持った上尾駱集落想像図

## (5) 尾駮遺跡(縄文時代の狩り場跡)

役場裏の約20メートル小高い七鞍段丘の上に、この遺跡はある。落とし穴が確認されたことから、縄文時代の狩場と考えられている。縄文時代の狩りの方法として、おとし穴がある。円形で底に上向きにとがらせた杭が打ち込まれたものと、溝のように細長いものの2種類ある。

### 1 円形の落とし穴

縄文時代早期後半から前期前半に太平洋側で多く作られ、主にイノシシを捕らえていた。

### 2 溝状土坑

縄文時代前期から晩期に主に太平洋側で作られた。獣道に沿って坂に3から10基が横並びで仕掛けられ、主にシカを追い込んで捕らえていた。



落とし穴を利用するの狩りの様子(想像図)



溝状土坑群 発茶沢(1)遺跡

## (6) 石川遺跡(縄文時代、弥生、平安時代の遺跡)

石川川のそばに石川遺跡がある。山から水が湧き出て川となり、生活用水として人々は使っていたと考えられる。現在、畑では、丸い石や小さな土器片が落ちていることを観察できる。丸い石は、川原か海辺で観察できるもので、人によって運ばれたものと考えられる。



石川遺跡の風景



丸い石が落ちている

## (7) 老部川遺跡

(奈良、平安時代の遺跡 約1,000年前)

老部川に、老部川大橋がかけられた時に発掘された遺跡で、奈良、平安時代の遺跡である。土砂を取り、平坦な地面をよく観察すると、土器片を見つけることができる。約1,000年前の平安時代の土器(土師器)である。土器片を見つけて、写真に撮ってみよう。



落ちている土器片



老部川遺跡の風景